

日の入りが早まります。早めのライト・オンを。
シルバーウィークは安全運転で楽しい休暇をお過ごしください。

スマートフォンでQRコードを読み込むと、DVDと同じ映像をインターネット経由でご覧いただけます。

この用紙は両面印刷でご使用ください。(表)



危うく衝突するところでした。

この映像の訴求ポイントは…

◎焦る渋滞中だからこそ待つ余裕を。

類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



交差点でのヘッドライトにはとにかく徐行…

この映像の訴求ポイントは…

◎交差点の通過を急ぐと、ロクなことになりません。

◎カーブミラーでヘッドライトが見えたら徐行しましょう。

類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



前走車の陰も車列の切れ目も原理は同じ…

この映像の訴求ポイントは…

◎たとえ相手が違反していても、事故を起こさないことが重要。

◎横断歩道の通過は徐行が一番。

類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



駐車場から出てくる車

この映像の訴求ポイントは…

◎見えぬなら、見えるようになるまで待ちましょう。

◎長く感じますが、待ち時間は、大抵、ほんの数秒です。

類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



なんで、こんな目に遭うの

この映像の訴求ポイントは…

◎安全運転&危険予測を怠らなくても事故は起こります。

◎シートベルトやチャイルドシートを忘れずに！

類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。

【コラム】自動運転が普及すると事故はなくなる？

IT技術の進化で、自動車の運転も自動化される見込みが出てきました。“自動運転”と聞くと、多くの人がイメージするのは、「自分はハンドルを握らなくても車がそのまま走りだして目的地まで連れていってくれる」というものでしょう。これこそ究極の自動運転で、海外では一般的にこのようなクルマを“ロボットカー”と呼びます。“ロボットカー”は、いつかは実用化されるでしょうが、それがいつかについては、専門家の間でも意見は分かれています。そもそも運転の自動化には段階があるというのが政府や専門家の考え方です。具体的には、ドライバーが運転操作に関与する度合いに応じて、レベル1から5まで段階分けしています。

実は、レベル1は、いま、すでに街中を走っている車です。新車で普及が進んでいる安全運転支援システム搭載車のことです。被害軽減自動ブレーキや車線逸脱警告、オートクルーズなどの機能に対応しています。最近では、レベル2の実用化も始まっています。レベル2は、レベル1よりも高度な運転支援を実現するもので、一定の条件ではハンドルを握らずに自動で車線内を走行したり、車線変更をしてくれるものです。

そしてレベル3。政府が東京オリンピックまでに実現を目指し、国内自動車メーカーの技術開発を後押ししているもので、通常の運転操作は自動ですが、緊急時のみドライバーが対応する状態をいいます。前述の“ロボットカー”のイメージに近いものですね。レベル4は、緊急時も自動車が対応する、完全な“無人ロボットカー”が想定されています。ここまできると、もはや自動車というよりも、お使いなどが代行可能なパートナーロボットですね。

自動運転が普及すると事故はなくなるのでしょうか？例えば、自動ブレーキが作動するということは、そのまま前を進んでいたら衝突していたのにそれを免れることができるわけですから、事故を未然に防ぐ効果があります。実際、安全運転支援システム搭載車の関与する事故率が下がったデータもあります。自動運転の普及とともに事故の数も減っていくことが予想されます。

とはいえ、それは事故がゼロになることではありません。最も恐ろしいのは、何らかの理由で自動運転が正常に作動せずに事故を起こすことですが、たとえ正常に作動していたとしても、避けきれないタイミングで動物が飛び出してきたり、落石に遭遇したりといったことは起こります。そんなとき、車内の乗員は確実にシートベルトを装着し、乳幼児はチャイルドシートに着座していることが求められます。そもそもレベル4が実現するまでは、緊急時の回避操作はドライバーに委ねられていますから、ドライバーはいつでもハンドルを握り、ブレーキペダルを踏める状態で“待機”していなくてはなりません。高速で移動する自動車は本来的に危険な乗り物です。たとえロボットカーが実現しても、その車内では、ほぼ、今まで通りの乗車姿勢が求められることになるのです。

